

前年度の成果と課題		教 育 目 標		人間性豊かな、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）の調和のとれた児童の育成を目標とする。					総合評価	
昨年度の児童の評価についてはおおむね良い結果が得られ、「学校が楽しい」と答える児童も高い数値であった。保護者の評価では「進んであいさつをしている」「読書が好きになるような工夫」等の数値が低く、今後の課題であることが反省点として挙げた。 地域との連携についても、コロナ禍を終えて、様々な行事が元通りになる中で、精選しながらも児童の成長に必要な体験活動のさらなる推進が次年度の課題である。		運 営 方 針		いのち輝き 感動いっぱい つなごう絆 を合い言葉に、確かな学力を身につけ、自尊感情と相手を思いやる豊かな心を育てる教育を推進する。					B	
		本年度の重点目標	○学びづくり：学習習慣の定着を図る。国語科での系統的な「書く」指導の取組。読書への興味関心を高める取組。計算力・語彙力を高める取組。ICT機器の活用とオンライン授業の導入（感染関係で欠席した児童に対して）。							
			○人づくり：（豊かな心の育成と健やかな体づくり）・心の教育の重視、心に響く道徳教育や人権教育の充実 ・挨拶や言葉遣いなど礼節の心、社会生活上の規則を進んで守ろうとする規範意識の醸造、・健康教育や食育、体力づくりを充実し、心身ともに健康で丈夫な体づくりの推進 ・体験活動の重視（コミュニティへの依頼）→（自己決定、自己有用感、共感的な人間関係の育成							
			○協働づくり（主体的な参画と協働）：同僚性が豊かな教職員集団、「課題や悩みを出しあい、学びあうことで教師力を向上させる」→情報の共有化・二上コミュニティを核に、保護者や地域との協働、幼保中との連携 ・情報発信を積極的に行い、「地域の学校」としての役割を果たす。							
学 校 経 営	評 価 の 観 点			児童	保護者	教職員	評価	成果と次年度への課題・対応	学校関係者評価	
1. 学校運営	◎教育目標や指導の重点を理解し、それらの実現に向けて取り組んでいる。			3.3	3.6	3.7	B	・本年度は「明るくて・楽しくて・安全で安心できる」二上小学校をみんなで作ってこうと児童や教職員が様々な場面で実現に向けて取り組んできた。本校の特色でもある生産学習や体験学習、また、学校行事では地域コミュニティの方や育友会を中心に保護者のお力をお借りしスムーズに取り組めた。 ・校務分掌等では、教職員が自覚と責任を持って取り組むように努めた。 ・今後も、学校からの便り等で学校の様子、児童の様子を伝えることで本校を理解いただけるように努めたい。	・昨年度は、児童の評価が保護者、教職員の評価より高かったが、今年は、児童の評価は、保護者、教職員の評価と同じくらいである。児童の評価が下がっていることは、物事の考え方がしっかりしてくると自分の評価が厳しくなってくるのではないかとと思われる。保護者、教職員の評価が上がっているのは保護者は学校の指導方針等に理解を得ていただいている、教職員も日頃の指導の成果が実感できていることだと思われる。	
	◎校務分掌部会や学年会を適時に実施し、チームで企画・運営・反省等をしている。					3.7				
	◎校務分掌において、昨年度の総括・課題等をふまえ、新たな提案や改善をしながら取り組んでいる。（PDCA）					3.7				
	◎家庭への様々な啓発活動（学校だより、HP、学年通信、保健・給食だより、家庭訪問、学級・学年懇談等）を通して、学校や学年・学級の取組等が保護者に伝わっている。				3.6	3.4				
	◎地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に生かしている。				3.4	3.4				
	◎児童や学校の実態を踏まえた、特色ある教育課程が編成されている。				3.2	3.3				
2. 学習指導	○教室で落ち着いて学習できる環境を整えている。			3.4	3.7	3.5	B	・基礎学力の定着や習慣化等は時間を有する取組だが、次年度も落ち着いて学習できるように、環境を整え、文章に慣れ親しみ、表現できるよう全校で取り組み、基礎学力の定着を図ってきた。 ・毎朝15分間のモジュールタイムで漢字、計算の学習や読書を行っている。本年度は、週に1回、「書きタイム」を設定し、15分間課題を与えて書く活動をした。1学期は視写を、2学期からはテーマを与えて自分の考えを書くことを通して、書くことに苦手意識を持つ児童を減らすことを目指した。アンケートからは書くことの楽しさを感じる児童も増えてきている。 ・読書の積み重ねは読解力を高め、いろんな教科の理解が深まると言われている。読書環境を整え、学校だけでなく家庭でも読書に取り組める環境づくりが必要である。	・児童、保護者、教員から高く評価されている項目には、「避難訓練（火災・地震）等の指導を児童の安全意識の向上のために適切に行っている」、「登下校中は車や自転車などに気をつけ、片側によって歩くように指導している」があるが、避難訓練に関しては、保育所、幼稚園、小学校と連携を図り合同の避難訓練を行っていることなどが評価されていると思われる。これからは、保幼小の連携だけでなく地域も巻きこんだ避難訓練や防災の取組をしていただければと思う。また、登下校の安全指導に関しては、地域、保護者の方々にご協力をいただき見守っていただいているということの証であると思われる。	
	○「学習のきまり」を活用し、学習規律の意識づけを図っている。			3.4	3.3	3.4				
	○毎日適切な課題（宿題）を出し、家庭学習の充実を図っている。			3.6	3.5	3.6				
	○子どもの発言や質問に耳を傾けながら、「わかる」「できる」ための指導を工夫している。			3.6	3.6	3.6				
	○思いや考えを伝え合い、互いに認め合える子どもを育てるための指導を工夫している。			3.2		3.4				
	○めあてを明確にした授業づくりや振り返りを取り入れた授業づくりを展開している。					3.5				
	○様々な読書活動を通して、読書量を増やし、読書が好きになるような指導を工夫している。			3.1	2.5	3.1				
	○計画的に道徳の授業を行い、子どもの心に響く指導を工夫している。					3.4				
3. 生徒指導	◎児童同士・地域の方・教職員に進んであいさつをしている。			3.3	2.9	3.5	A	・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を念頭に児童に接してきた、今後も引き続き継続してみんなが、「安全で安心できる」学校づくりに努める。 ・本年度は避難訓練を保育所、幼稚園と合同で行い防災への意識を高めた。 ・日頃から「明るい」学校にするためにも、元気に進んで挨拶をしようとする指導をしているがなかなか自ら進んで挨拶をすることができていないようである。昨年度からの課題でもあるので引き続き元気に進んで挨拶ができるように取り組んで行きたい。	・児童、保護者、教員から低い評価の項目には、「様々な読書活動を通して、読書量を増やし、読書が好きになるような指導を工夫している」「給食指導などの食に関する指導により、児童の望ましい食習慣（食事マナー、好き嫌いせずに食べる等）が身に付いてきている」があるが、本を読むことは読解力を高めるためにとても良いので、朝の時間に読書タイムを設定してもらっているが、本を読む機会を増やしてあげてほしい。また、食に関しての指導については栄養教諭が中心となり児童に食育や、お箸の持ち方などの食のマナーについて指導をしたり、保護者には給食試食会の取組みを行っているが引き続き行ってほしい。	
	◎学校の「やくそく」や「決まり」を守って生活する。			3.5	3.5	3.3				
	◎避難訓練（火災・地震）等の指導を児童の安全意識の向上のために適切に行っている。			3.7	3.7	3.7				
	◎登下校中は車や自転車などに気をつけ、片側によって歩くように指導している。			3.8	3.5	3.7				
	◎校内環境を美しく整えている。			3.4	3.6	3.4				
	◎植物の栽培活動を通して、生長の喜び、達成感、勤労観を育てている。			3.4	3.6	3.3				
4. 健康教育	◎運動や遊びに関心をもち、進んで体力向上に取り組む子どもたちが増えるように、取組の工夫が行われている。			3.2	3.3	3.5	B	・今後も進んで運動に取り組めるような授業や取組を、系統立てて行えるようにしていく。そのために、年間指導計画の見直しや多くの児童が体を動かすこと、体育の授業が楽しいと思えるような工夫を行う。 ・今年度の体力テストの成果として、多くの種目で県平均を上回っていた。課題としては、男女ともに持久力、ソフトボール投げの数値が県平均を下回った。今後、課題に向けての改善を進めていきたい。 ・食物アレルギー関係の研修は今後も継続して行っていきたい。		
	○年間指導計画（ゲーム・ボール運動、器械運動、プール水泳）に沿って行い、児童の実態に合わせて授業の工夫を行っている。			3.7		3.5				
	◎給食指導などの食に関する指導により、児童の望ましい食習慣（食事マナー、好き嫌いせずに食べる等）が身に付いてきている。			3.3	3.0	3.4				
	◎保健指導により、心と体の健康に対する知識及び態度が身に付いてきている。					3.3				
	◎研修等を通して、食物アレルギーに関する危機管理体制ができている。					3.7				
5. 人権教育	○いじめや日頃のトラブル、悩みなどについて、子どもの話に耳を傾け、ていねいに内容をつかみ、気持ちによりそいながら対応している。			3.6	3.5	3.7	B	・本年度から「やさしい二上っ子になろう」をテーマに全校児童に対して毎月1回行った。周りの友達について理解をしよう、みんながそれぞれ違っていてもいい、そして周りの人にやさしくできる人になってほしい等の思いをもって取り組んでいる。		
	○自尊感情と相手を思いやる心を育む具体的な取組を行っている。			3.5		3.4				
	○個別の課題に対して、計画的・継続的に取り組んでいる。					3.5				
6. 特別支援	○一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援を行っている。				3.5	3.6	A	・月に一度、校内支援委員会を実施し児童の理解や指導、支援態勢について情報交換を行うことにより、個別の指導や支援を充実している。今後もこの取り組みを継続して行きたい。		
	◎児童実態交流や校内支援委員会、ケース会議により、児童の理解や指導、支援体制に生かされている。					3.5				
7. その他	毎日、朝食を食べ登校している。			3.7	3.8			・運動習慣等調査から、朝食を毎日食べる児童は、男子で85.4％（全国平均81.3％）、女子で90.9％（全国平均79.5％）と全国平均を上回っている。 ・94％の児童が学校を楽しみにしている。		
	早寝、早起きの習慣が身についている。			3.1	3.2					
	学校生活を楽しく送ることができている。			3.6						

評価はA・B・C・Dの4段階

点数はアンケートのよくできた4点 だいたいできた3点
あまりできなかった2点 できなかった1点 の平均点